

「山麓リボンの道」写真展の開催 ～写真で結ぶリボンの道～

《山麓リボンの道とは》

神戸市内を東西に結んでいる散策路、「山麓リボンの道」をご存じですか？これは東灘区のJR甲南山手駅から垂水区の山陽電鉄西舞子駅まで、様々なまちのスポットをリボンのようにつないだ道です。昭和54（1979）年にルートを設定以来、20年がたちました。全長は約45キロあります。

《どのような写真展？》

この「山麓リボンの道」で、昨年7月から今年1月までウォークラリーを実施しました。その参加者の方から募集した沿道の写真を、「写真展」にて展示します。

応募写真には、神戸の自然や名所などの風景のほか、少し意外と思われるようなものもあります。

《実際に歩いてみて…》

また、ウォークラリーの参加者の方からは、「あらためて神戸の良さを再発見した」「長い間神戸に住んでいるが今度初めて歩いた所がたくさんあった」「歩

く事の楽しさがわかった」「道中知らぬ人とのふれあいが出来、楽しかった」などの声も寄せられています。

《会場へお越し下さい！》

会場では、市民の方が撮影された写真を中心に、歩いてお気づきになった感想などで「山麓リボンの道」を紹介しております。すでに歩かれた方には散策時の想いを新たにする場に、そしてまだ歩かれていない方にはこの道を知っていただける機会にさせていただくよう、皆様もぜひお越し下さい。

- ・ 場所：こうべまちづくり会館 1階
(この「あーばんとーく」最後のページにある地図をご覧ください。)
入場は無料です。
- ・ 期間：平成12年3月2日(木)から3月30日(木)まで
午前10時から午後6時まで
※水曜日は休みです。



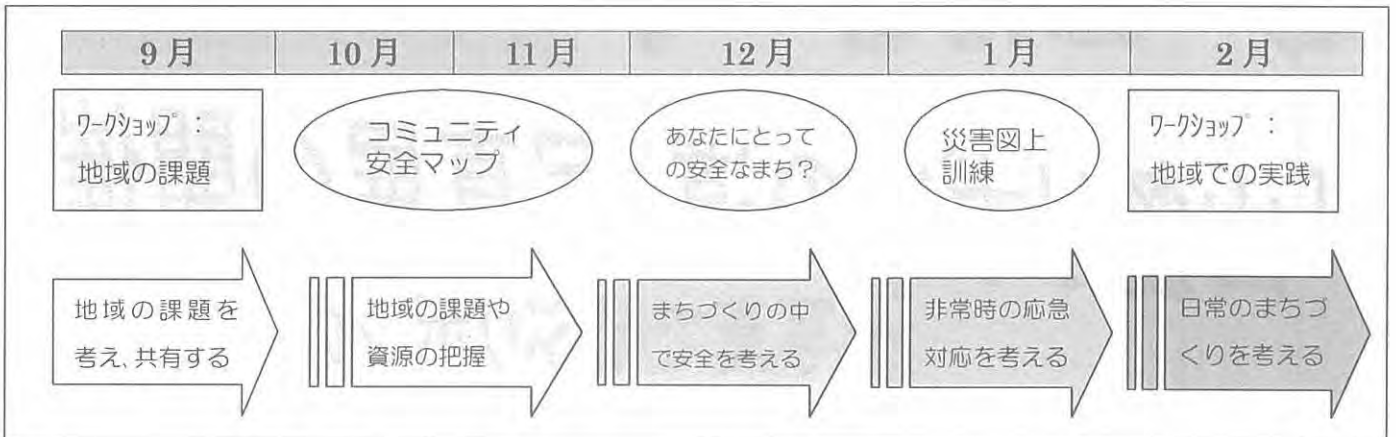
布引の滝・雌滝（中央区）



烏原貯水池（兵庫区）

第3期 こうべ市民安全まちづくり大学 まちづくり講座が最終回を迎えました

半年間にわたって開講した「まちづくり講座」も、今回が最終回となりました。まず、これまでの講座の流れを簡単に振り返ってみましょう。



◎今回のテーマは「みんなで元気なコミュニティづくりを考えよう！」。

講師は、(株)防災&都市づくり計画室の吉川 仁先生と産業技術短期大学 助教授の児玉 善郎先生にお願いしました。

これまでに学んだことを生かして、受講生が大学修了後にそれぞれの地域でどのようにして安全なまちづくりを進めていくかを考える講座です。

前もって、吉川先生が受講生に次のようなアンケートを実施されました。



Q1. 今後、自分からやってみたいこと、地域で取り組んでみたいことは？

- | | |
|--------------------|-----|
| 1. コミュニティ安全マップづくり | 13人 |
| 2. 地域の人達とのつながりづくり | 11人 |
| 3. 各種防災活動(訓練、啓発など) | 10人 |
| 4. 福祉・ボランティア活動 | 5人 |

Q2. 地域で取り組むにあたって、気がかりなこと、問題になりそうなことは？

- | | |
|-----------------------|-----|
| 1. 人材不足(リーダー、若い人) | 16人 |
| 2. 地域におけるコミュニケーションが希薄 | 12人 |
| 3. 安全・安心に対する意識が低い | 8人 |
| 4. コミュニティの役割、組織の問題 | 6人 |

講座では、この回答をもとに、旗上げアンケートを行い、受講生には課題などを具体的に話していただきました。

Q1. 隣近所で顔見知りなどは多い

- | | |
|---------------|-----|
| 1. 地域で付き合いがある | 26人 |
| 2. あいさつする程度 | 12人 |
| 3. 少ない、いない | 4人 |
| 4. よくわからない | 1人 |

Q2. 地域での活動に参加している

- | | |
|-----------------|-----|
| 1. 自治会などで活動している | 28人 |
| 2. 個人で参加した | 9人 |
| 2. その他 | 9人 |

Q3. 卒業後の「防災やまちづくりの組織的活動について」

- | | |
|----------------|-----|
| 1. 何とかできると思う | 23人 |
| 2. なかなか難しい | 17人 |
| 3. 大変難しそう、できない | 5人 |

Q4. 活動にところあたり(手がかり)はありますか？

- | | |
|----------|-----|
| 1. ある | 29人 |
| 2. ない | 8人 |
| 2. わからない | 8人 |

また、吉川先生は、今後のコミュニティによる安全で安心なまちづくりの参考に、東京の元気なコミュニティによる防災まちづくりの事例(杉並さんし会、世田谷楽動クラブなどの取り組み)を紹介されました。

★★★ 市民安全推進員によるコミュニティ活動報告 ★★★

◎コミュニティ安全マップの報告会

平成12年1月27日、神戸国際展示場で「第4回 震災対策技術展」が開催されました。同時開催の「防災とボランティアワークショップ」(日本災害救援ボランティアネットワーク-NVNAD—主催)の中では、推進員の東山地区防災福祉コミュニティの吾妻 義信さんと真陽地区防災福祉コミュニティの安田 敏明さんがコミュニティ安全マップの取り組みを発表されました。また、災害図上訓練も実施され、推進員やまちづくり大学の受講生、NVNADや一般市民の方々、約50名が参加しました。

(吾妻 義信さん)

(安田 敏明さん)

(マップの掲示風景)



会場には、これまで16地区の防災福祉コミュニティが作った安全マップが掲示され、他市町の住民の方、各種団体・企業の方、大学教授など学識経験者や他都市の行政担当者のほか、多くの方々が見学されていました。

「まちづくり」って何？ NO. 9 一段階的・実験的・暫定的まちづくり

実験的整備や暫定整備を繰返しながらその成果をフィードバックし、段階的に全体計画を形づくっていく手法について、その意義と課題について考察していこう。まちづくりに限らず行政が全体計画やビジョンを明らかにしていく際、市民、市会等の理解が得られるかどうか机上での綿密な検討が必要である。しかし、検討段階で時期尚早とお蔵入りになったり、リスク回避を繰返すうちに骨抜きになったり、また、実施してみると予期せぬ批判を浴びたりすることも少なくない。その点、区役所レベルで施策を検討する場合、より身近なところで市民の意見を直接聞くことができるとともに、多少問題があっても全市的レベルまで影響が及ばない利点がある。

特に、先駆的施策を実現していくためには、社会的実験と割り切り、とりあえず良いと思うことはやってみて、市民のナマの意見をとり入れていく、言わば現場合わせも必要である。そのような暫定整備の成功例として、年間 80 万人の来館者を集め市民に親しまれている「北野工房のまち」の実現までの過程を紹介したい。

きっかけは、学校統廃合により廃校になった北野小学校の跡地利用について、地域の住民リーダーの方から相談を受けたことであった。特に計画もなかったので、地域住民の声をまとめて下さいと答えたところ、小学校 OB を中心にアンケートを実施され、区役所に提出された。アンケートの回答は多岐にわたっており、例えばバスの駐車場については賛否両論があったが、概ね文化的な施設を希望する声が多かった。しかし、文化的な公共施設は整備・管理とも多大な経費がかかるうえ、市内部でも一等地であるため民間に土地を売却して民活事業を導入すべきだという意見が多かった。そこで、このように住民及び行政とも期待の大きい跡地の将来を震災後の財政状況が厳しく景気の悪い時期に決定することは好ましくない。また、昭和 6 年に建てられた東校舎も現時点では文化財的価値はないが、内部はなかなか風格があり評価は将来に委ねよう。という理由から、東校舎に最低限の改修を加え、教室をそのまま管理費も少ないテナント方式で文化・工芸の工房として低料金で賃貸し、入居者と地域住民との協調的な自主管理運営をめざすという暫定活用のプランをたてた。最終的な跡地利用計画は暫定活用の実績を踏まえたうえで、運営ノウハウも活用しながら決定し

ていけば良いという考えであった。幸い、「神戸ファッション協議会」が提案する「お菓子の工房」のコンセプトとドッキングすることができ、基本コンセプトができあがった。

プランの肉づけにあたっては、前述のアンケートを実施した「北野小学校の跡地を考える会」「北野・山本地区をまもり、そだてる会」「トアロード地区まちづくり協議会」の地域のまちづくり三団体と「神戸ファッション協議会」が参加した懇話会を設置し、検討を加えた。懇話会では、メンバーも入れ替り立ち替りで素朴な意見もあったが、有益な意見が多かった。そのいくつかを紹介すると、ア、子供の卒業記念作品をインテリアとして活用する。イ、三階の講堂は住民とファッション協議会等の協調的管理により、地域から工房文化の発信をめざす。ウ、OB がいつでも訪問できるよう「思い出の部屋」を整備し、そこでまちづくり三団体交替による展示を行う。また、思い出にふけられるよう学校の椅子をいくつか置いておく。エ、プールの上部をふたがけして地元管理の小公園とする。オ、バス駐車場を年に 1 回市民開放し、地域の盆踊り等に利用する。このような意見は、北野小学校を小学校としての趣を残しながら見事に工房としての新しい命を吹き込むことに成功したし、絶えず地域住民や小学校 OB とのふれあいを可能にした。実際、お客さんとなっているのは、観光バスで来る観光客だけでなく、アンケートや懇話会に参画した地元住民が多く占めていることが、そのことを雄弁に物語っている。まさに「近きもの喜ばば、遠き者来たる。」のことわざの好例である。また、紙面が少ないので多くは語れないが、暫定ということが三階の講堂や「思い出の部屋」など管理区分の曖昧な空間を生み出し、それがかえってまちづくりのきっかけとなっていることもつけ加えたい。それらの空間は「入会権」のようにかつての日本では、多く見られたが、そこでは明確な管理規定はなくコモンセンスによって運営されているのである。

「北野工房のまち」は概ね 5 年の暫定活用としてスタートしたが、5 年後に住民の意見を取り入れながらどう進化していくか、今後の楽しみである。

(前中央区まちづくり推進課長・現教育委員会社会教育部
体育保健課長 見 通 孝)

ライオンセンター ライブラリーニュース

こうべまちづくりセンター図書室
 まちづくり会館 4階・Tel 361-4523
 開館時間：午前10時～午後6時
 休館日：毎水曜日・年末年始

新着図書のご案内

	図書名	著者・編者	発行元	発行年月
1	路面電車とまちづくり	RACDA	学芸出版社	1999年5月
2	社会資本の未来	社会資本整備研究会	日本経済新聞社	1999年10月
3	サンフランシスコ都市計画局長の闘い	アラン・ジェイコブス	学芸出版社	1998年8月
4	日本庭園と風景	飛田 範夫	学芸出版社	1999年6月
5	歴史ある建物の活かし方	清水 真一 他	学芸出版社	1999年7月
6	建物リサイクル	青木 茂	学芸出版社	1999年7月
7	「住宅」という考え方	松村 秀一	東京大学出版会	1999年8月
8	マンション管理組合役員用マニュアル(1)・(2)	マンション管理センター	マンション管理センター	1986年12月
9	町屋型集合住宅	町屋型集合住宅研究会	学芸出版社	1999年4月
10	区分所有法入門	玉田 弘毅	マンション管理センター	1997年5月

当センターにふさわしい、図書・資料をご紹介ください。担当、橋本まで。

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
3月2日(木)～7日(火)	第3回神戸墨酔会展(水墨画)	墨酔会 劉 素真
3月9日(木)～14日(火)	'99全日本写真連盟兵庫県本部委員展・入賞作品展	全日本写真連盟兵庫県本部
3月16日(木)～21日(火)	第22回兵庫倶楽部写友会写真展	兵庫倶楽部写友会
3月23日(木)～28日(火)	紙紅会和がみ画展	紙紅会
3月30日(木)～4月4日(火)	第14回 火彩会作品展(水彩画)	火彩会

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

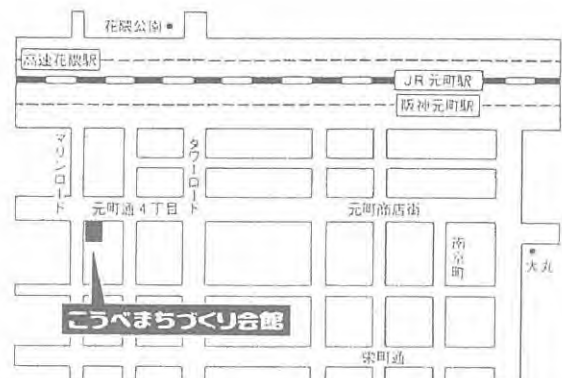
3月2日(木)～31日(金)	「山麓リボンの道」写真	都市計画局アパ ンデ ザ イ室
----------------	-------------	-----------------

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
 (こうべまちづくり会館 3F)
 電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
 受付は、月・火・木・金曜の午前10時～午後5時
- 土・日・祝日は
 まちづくり相談コーナー で受け付けます
 (こうべまちづくり会館 4F)
 時間は、午前10時～午後5時

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)
 会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など
 受付:午前10時～午後6時(水曜・年末年始は休館)
 電話 078-361-4565



〒650-0022

神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話 078-361-4523

FAX 078-361-4546